

◎指示があるまで開かないこと。

(令和6年2月4日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>101 <input type="radio"/> a <input type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>101 <input type="radio"/> a <input type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input checked="" type="radio"/></p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">101</td> <td style="text-align: center;">101</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> a</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> a</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> b</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> b</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> c</td> <td style="text-align: center;">→ <input type="radio"/> c</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> d</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> d</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> e</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="radio"/></td> </tr> </table>	101	101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>
101	101												
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a												
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b												
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c												
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d												
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>												

- 1 褥瘡ができやすい部位はどこか。
 - a 耳 介
 - b 手 掌
 - c 臍
 - d 外陰部
 - e 踵 部

- 2 メタ分析(メタアナリシス)で正しいのはどれか。
 - a エビデンスレベルは低い。
 - b 複数の研究を統合できる。
 - c 出版バイアスは考慮しなくてよい。
 - d 無作為化比較対照試験と同義である。
 - e 研究者自身が対象集団に直接働きかけてデータを収集する。

- 3 血液培養2セット中1セットのみが陽性の場合、起因菌ではなく常在菌の汚染菌〈コンタミネーション〉と解釈して治療しない場合があるのはどれか。
 - a *Candida albicans*
 - b *Escherichia coli*
 - c *Pseudomonas aeruginosa*
 - d *Staphylococcus aureus*
 - e *Staphylococcus epidermidis*

4 Which is **NOT** the correct combination between the risk factor and its associated disease?

- a smoking ————— bladder cancer
- b lack of physical activity ————— colon cancer
- c obesity after menopause ————— breast cancer
- d excessive alcohol consumption ————— esophageal cancer
- e excessive dietary sodium intake ————— lung cancer

5 終末期癌患者の死亡前3日以内の身体所見の変化で適切なのはどれか。

- a 手足の熱感
- b 尿量の増加
- c 酸素飽和度の上昇
- d 橈骨動脈の触知不良
- e 毛細血管再充満時間の短縮

6 最近10年間の我が国の患者調査において65歳以上で患者数(外来)が最も多いのはどれか。

- a 糖尿病
- b 緑内障
- c 高血圧症
- d 悪性新生物
- e 脂質異常症

- 7 座位の患者からの鼻咽頭ぬぐい液の採取手順で誤っているのはどれか。
- a 個人防護具を着用する。
 - b 患者の側方に立つ。
 - c 患者の頭部が動かないよう支える。
 - d 綿棒を患者の鼻孔から上方に向けて挿入する。
 - e 咽頭後壁からぬぐい液を採取する。
- 8 標準予防策が適用されている患者に対し、医療従事者がディスポーザブル手袋を**着用せず**に取り扱えるのはどれか。
- a 患者の眼鏡
 - b 創部にあてたガーゼ
 - c 便が付着したオムツ
 - d 口腔ケアに用いたブラシ
 - e 喀痰が付着したティッシュペーパー
- 9 閉塞性黄疸に伴いやすい症状はどれか。
- a 紫 斑
 - b かゆみ
 - c 黒色便
 - d 立ちくらみ
 - e 肉眼的血尿

10 ノーベル生理学・医学賞を受賞した日本人研究者と研究内容の組合せで正しいのはどれか。

- a 大隅 良典 ————— 免疫チェックポイント阻害因子の発見
- b 大村 智 ————— 抗体の多様性に関する遺伝的原理の発見
- c 利根川 進 ————— 寄生虫感染症の治療法の発見
- d 本庶 佑 ————— オートファジーの解明
- e 山中 伸弥 ————— 多能性幹細胞(iPS細胞)の作製

11 非感染性疾患で誤っているのはどれか。

- a 遺伝要因は発症に関係する。
- b 生活習慣は発症に関係する。
- c 予防は健康日本21の目標である。
- d がん、循環器疾患、糖尿病の総称である。
- e 社会的な環境を踏まえた対策が必要である。

12 腰椎穿刺による脳脊髄液検査で正しいのはどれか。

- a 患者を腹臥位にする。
- b 滅菌手袋を着用して穿刺する。
- c できるだけ太い穿刺針を用いる。
- d 患者のL1とL2の椎間を穿刺する。
- e 患者は脳脊髄液採取後に一定時間座位を保つようにする。

13 共同意思決定〈シェアードディシジョンメイキング〉の説明で正しいのはどれか。

- a 医療者が最善と考えた方針を説明し同意を得る。
- b 医療者が提供した選択肢から患者が選択する。
- c 医療者と患者がともに最善の方法を探る。
- d インフォームド・コンセントと同義である。
- e 患者の経過が確実に予測できる場合に適している。

14 主に湿性咳嗽をきたす疾患はどれか。

- a 咳喘息
- b 間質性肺炎
- c 感染後咳嗽
- d 胃食道逆流症
- e 副鼻腔気管支症候群

15 医師の職業倫理に**反する**のはどれか。

- a 患者からのセカンドオピニオンの求めに応じる。
- b 他の医師の不適切な医療行為に対して忠告する。
- c 自身の業務に関係のない患者の電子カルテを閲覧する。
- d 治験薬剤の適応に合致する患者に治験の情報を提供する。
- e 判断能力のない患者の利益擁護者に病状や治療内容を説明する。

- 16 乳癌を疑う所見で誤っているのはどれか。
- a 乳汁分泌
 - b 乳頭陥凹
 - c えくぼ徴候
 - d 橙皮様変化
 - e 大胸筋に固着した腫瘤
- 17 腎機能で正しいのはどれか。
- a 腎血流量は加齢により増加する。
 - b 尿濃縮能は加齢により増加する。
 - c 糸球体濾過量(GFR)は妊娠中期に減少する。
 - d GFRが低下すると血清シスタチンCは減少する。
 - e 血清クレアチニンを用いた推算GFRは筋肉量に影響される。
- 18 患者に進行がんの告知をする際に適切なのはどれか。
- a 家族は同席させない。
 - b 一度だけ説明すればよい。
 - c 患者の解釈モデルは聴取しない。
 - d 患者の理解度にかかわらず手短かに説明する。
 - e 悪い知らせを聞く意思があるかどうかを患者本人に確認する。

19 パニック障害〈パニック症〉の症状はどれか。

- a 健忘
- b 無為
- c 観念奔逸
- d 予期不安
- e フラッシュバック

20 身体診察で正しいのはどれか。

- a 呼吸数測定は5秒間行う。
- b 血圧測定は患者が会話中に行う。
- c 上肢近位筋の筋力測定は握力計で行う。
- d 内頸静脈での中心静脈圧推定は臥位で行う。
- e 固定姿勢保持困難〈asterixis〉は上肢を前方に水平挙上させて観察する。

21 写真(別冊No. 1A～E)を別に示す。

肛門直腸の診察に用いる器具はどれか。

- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

別冊

No. 1 A～E

22 死亡診断書で正しいのはどれか。

- a 解剖所見は記載できない。
- b 歯科医師は発行できない。
- c 主治医以外は記載できない。
- d 医師が署名しなければならない。
- e 保健所に届け出なければならない。

23 窒息後に意識を消失して倒れた人に対し、まず行うべき対応はどれか。

- a 胸骨圧迫
- b 背部叩打
- c 腹部突き上げ
- d 口対口人工呼吸
- e 口腔内異物除去

24 健康成人の総エネルギー摂取量に占める栄養素の割合で、日本人の食事摂取基準の目標値の範囲にある組合せはどれか。

	炭水化物(%)	蛋白質(%)	脂質(%)
a	35	35	30
b	35	15	50
c	55	35	10
d	55	15	30
e	75	15	10

25 ショックと症候の組合せで誤っているのはどれか。

- a 出血性ショック ————— 頻 脈
- b 心原性ショック ————— 乏 尿
- c 神経原性ショック ————— 徐 脈
- d 敗血症性ショック ————— 蕁麻疹
- e アナフィラキシーショック ——— 喉頭浮腫

26 36歳の男性。定期健康診断で高血圧を指摘され来院した。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。父親が高血圧症で治療中。身長168 cm、体重60 kg、腹囲77 cm。脈拍76/分、整。血圧144/78 mmHg。尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液生化学所見：空腹時血糖99 mg/dL、尿酸6.8 mg/dL、総コレステロール170 mg/dL、トリグリセリド70 mg/dL、HDLコレステロール58 mg/dL。心電図に異常を認めない。管理栄養士が本人から聴取した食事内容から、摂取エネルギー量1,900 kcal/日、塩分摂取量15 g/日と推定した。

適切な指示はどれか。

- a 減 塩
- b 禁 酒
- c 体重の減量
- d 脂肪摂取制限
- e プリン体摂取制限

27 11歳の男児。下腹部痛を主訴に学校の先生に連れられて来院した。午後から急に下腹部痛が出現し、徐々に増強して我慢できなくなったため受診した。体温36.8℃。脈拍108/分、整。血圧118/62 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 99%(room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で、下腹部に軽度の圧痛を認めるが、筋性防御および反跳痛は認めない。肝・脾を触知しない。腸雑音に異常を認めない。鼠径部に腫瘤を触れない。左陰嚢は右陰嚢に比較して腫大し、透光性は無く、軽度の発赤と著明な圧痛を認める。カラードプラ陰嚢部超音波検査で左精巢実質内の血流信号が乏しい所見が認められた。

診断はどれか。

- a 精巣腫瘍
- b 精巣水腫
- c 精索静脈瘤
- d 精巣捻転症
- e 鼠径ヘルニア

28 An ambulance brought a 28-year-old man to the emergency room. He was found on the street unconscious.

In his wallet, he had a memo stating, "I have thrombocytopenia from aplastic anemia. If I pass out, please obtain a CT scan to rule out intracranial hemorrhage immediately. Thank you in advance."

Which test should you order next?

- a head CT
- b brain MRI
- c serum alcohol level
- d serum ammonia level
- e electroencephalogram

29 5歳の男児。発熱と耳痛を主訴に両親に連れられて来院した。2日前から鼻水があった。昨日から左耳痛と発熱が出現したため外来受診した。体温37.5℃。左の鼓膜所見(別冊No. 2)を別に示す。

適切な治療はどれか。

- a 耳洗浄
- b 耳管通気
- c 抗菌薬投与
- d 鼓室形成術
- e 鼓膜チューブ挿入術

別 冊

No. 2

30 研修医が担当した肺炎の入院患者に対して、指導医と相談し抗菌薬で治療することになった。薬剤師がこの患者に同系統の抗菌薬でアレルギー歴があることを確認し、研修医に連絡した。研修医から「指導医と決めたことなので問題ない」と返答があったため、そのまま投与された。病棟でこの薬剤を投与中に蕁麻疹が出現した。すぐに薬剤を中止したところ、蕁麻疹は消退した。

この事例の適切な対応はどれか。

- a 医療安全管理部門にインシデントレポートを提出する。
- b 医療事故調査委員会に調査を依頼する。
- c 当該の抗菌薬の製薬会社に報告する。
- d どこにも報告する必要はない。
- e 保健所に届け出る。

31 38歳の女性(3妊0産)。強い腹痛を主訴に救急車で搬入された。月経周期は28日型、整。最終月経は7週間前。本日から突然強い下腹部痛を自覚したため救急車を要請した。性器出血を認めない。意識は清明。体温37.1℃。心拍数116/分、整。血圧78/52 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 98%(room air)。腹部は軽度膨隆し右下腹部に圧痛と反跳痛を認める。妊娠反応陽性。腹部超音波検査でMorrison窩とDouglas窩に低輝度の液体貯留像を認める。経膈超音波検査で子宮内膜の高輝度肥厚および右付属器領域に不整形低エコーを認める。

この患者への適切な対応はどれか。

- a 緊急手術
- b 子宮鏡検査
- c 子宮動脈塞栓術
- d 1週間経過観察
- e 葉酸代謝拮抗薬投与

32 34歳の女性。発熱と皮疹を主訴に来院した。昨日から咽頭痛があったが、日常生活は普通に送っていた。本日からガタガタ震える悪寒を伴う39.6℃の発熱、頭痛、悪心および関節痛を認める。生来健康である。意識は清明。身長165 cm、体重60 kg。体温39.8℃。脈拍120/分、整。血圧90/58 mmHg。呼吸数28/分。SpO₂ 96%(room air)。瞳孔は左右差なく、対光反射は正常。眼球結膜に点状出血と黄染とを認める。口腔内はやや乾燥している。咽頭は発赤を認めない。頸静脈の怒張を認めない。項部硬直を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、腸雑音を聴取する。肝・脾を触知しない。両上肢手掌と下肢足底とにびまん性の出血斑を認める。入院時の血液培養からグラム陰性球菌を認めた。

最も可能性の高い原因微生物はどれか。

- a *Escherichia coli*
- b Group A *Streptococcus*
- c *Moraxella catarrhalis*
- d *Neisseria gonorrhoeae*
- e *Neisseria meningitidis*

33 78歳の男性。下腹部痛と排尿ができないことを主訴に来院した。3か月前から頻尿がある。一昨日の夕食後から感冒症状があり市販の総合感冒薬を内服している。昨日の昼から尿が出ず、下腹部痛が出現したため受診した。身長165 cm、体重60 kg。体温36.6℃。脈拍84/分、整。血圧154/88 mmHg。下腹部に弾性軟の腫瘤を触知し、同部に圧痛あり。直腸診で径5 cm、弾性硬の前立腺を触知し、圧痛を認めない。

まず行うべき画像検査で適切なのはどれか。

- a 骨盤部MRI
- b 腹部造影CT
- c 腹部超音波検査
- d 腹部エックス線撮影
- e 下部消化管内視鏡検査

34 28歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠18週に高血糖を指摘され来院した。妊娠16週時に尿糖陽性を指摘され、2週間後の随時血糖値が162 mg/dLと高値を示したため紹介受診となった。既往歴に特記すべきことはない。身長158 cm、体重57 kg(非妊時体重54 kg)。血圧124/62 mmHg。下腿に浮腫を認めない。妊娠19週時に75 g経口ブドウ糖負荷試験(OGTT)を施行し、負荷前値112 mg/dL、1時間値218 mg/dL、2時間値202 mg/dLであった。超音波検査で子宮頸管長4.2 cm、推定胎児体重は190 g(0.0 SD)、羊水量は正常であった。

適切な対応はどれか。

- a 運動療法は勧めない。
- b 経口血糖降下薬を開始する。
- c 1日1,200 kcalの食事療法を行う。
- d 食後2時間の血糖値が150 mg/dL未満を目標とする。
- e 産褥6週間後に再度75 g経口ブドウ糖負荷試験を行う。

35 88歳の女性。腰痛を主訴に救急車で搬入された。今朝、自宅で転倒してから腰痛のため歩けなくなったため救急車を要請した。高血圧症と認知症で治療中である。改訂長谷川式簡易知能評価スケールで7点(30点満点)。要介護度は要介護1である。腰椎エックス線写真で第3腰椎の圧迫骨折を認め、疼痛管理とリハビリテーションを目的に入院となった。入院1か月後に状態が安定したので、退院後の方針について夫と話し合いとなった。

夫への説明で適切なのはどれか。

- a 「話し合いの内容は文書では残しません」
- b 「配偶者は代理意思決定者にはなれません」
- c 「本人は認知症があるので参加は不要です」
- d 「話し合いで決まったことでも後で変更できます」
- e 「ケアマネジャーに話し合いの内容を伝える必要はありません」

36 23歳の男性。腹痛を主訴に来院した。2日前に上腹部痛を自覚した。本日、明け方から痛みが右下腹部に移動し、悪心を伴うため自宅近くの診療所を受診した。2日間排便がない。臍周囲から右下腹部が痛み、咳で右下腹部に痛みが響くようになったという。尿の異常は自覚していない。意識は清明。体温 37.6℃。脈拍 88/分、整。血圧 108/70 mmHg。呼吸数 16/分。

この患者の腹部診察で正しいのはどれか。

- a 直腸指診を行う。
- b 聴診の前に打診を行う。
- c 腸蠕動音の聴取は5秒間行う。
- d 痛みを訴える部位から触診する。
- e 腸蠕動音の聴取は5か所以上で行う。

37 80歳の女性。1か月前に自宅近くの病院で肺癌および多発骨転移と診断された。本人の強い希望で薬物による抗癌治療などの積極的な治療はせず、自宅にて訪問診療を受けている。トイレに行くことはできるが、日中も主にベッド上で過ごしている。65歳時に夫と死別してから独居である。息子はいるが遠方に住んでおり、ほとんど会うことはない。表情は硬く、自宅を訪問するスタッフとも会話をすることが少ないという。ある日、訪問診療に訪れた医師に、患者は「もう終わりにしたいです」と訴えた。

患者のこの言葉に対する医師の最初の返答で適切なのはどれか。

- a 「緩和ケア病棟への入院を検討しましょう」
- b 「すぐに安楽な死を迎えられる薬剤を準備します」
- c 「身体の症状で、いま一番つらい症状を教えてください」
- d 「おつらいですね、もう少しお気持ちをお話しいただけますか」
- e 「そんなことをおっしゃらずに、もう少し頑張ってみましょう」

38 75歳の男性。自転車で転倒したため救急車で搬入された。右大腿骨頸部骨折の診断で人工骨頭置換術を受けた。2週間のリハビリテーションでつかまり立ちができる程度に回復した。本人はリハビリテーションに意欲的で自宅での生活を希望している。認知症はなく妻と2人暮らしである。

患者の退院先で適切なものはどれか。

- a 介護医療院
- b 特定機能病院
- c グループホーム
- d 特別養護老人ホーム
- e 回復期リハビリテーション病院

39 72歳の女性。歩行困難を主訴に来院した。10年前から便秘で、5年前から嗅覚の低下を自覚している。2年前から料理のときに右手で炒めものをかき混ぜづらくなった。症状は徐々に進行し、3か月前から歩行が不安定となったため受診した。眼球運動は正常。仮面様顔貌と小声で早口の構語障害を認める。四肢では特に右上肢で中等度の筋強剛と静止時振戦を認める。四肢の筋力低下は認めない。Romberg 徴候は陰性で感覚障害を認めない。痙縮はなく腱反射は正常である。起立は自力のできるが、姿勢反射障害がある。頭部 MRI で異常を認めない。ドパミントランスポーター SPECT で左側線条体の取込み低下を認める。

この患者にみられる歩行障害はどれか。

- a 鶏歩
- b 小刻み歩行
- c 動揺性歩行
- d はさみ足歩行
- e マグネット歩行

40 74歳の女性。①高血圧症で通院治療を受けている。1年前から変形性膝関節症と診断され、杖をついて屋外歩行をしている。②一人暮らしで、③年金生活をしている。食事摂取、着替え、排泄および入浴は自立している。④認知機能に問題はない。膝の痛みのため掃除と洗濯ができない。要介護認定は⑤要支援1である。介護予防ケアプランに基づいて予防給付(介護予防サービス)を受けている。

予防給付(介護予防サービス)を受ける根拠はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

48歳の女性。突然の頭痛のため救急車で搬入された。

現病歴 : 今夜8時、食事中に突然激しい頭痛と嘔吐をきたし、同居の夫が異変に気づき救急車を要請した。

既往歴 : 健康診断で高血圧を指摘されていたが、そのままにしていた。

生活歴 : 夫と2人暮らし。喫煙は20歳から10本/日。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識はややぐったりしている。自発開眼はなく、呼びかけで開眼する。痛み刺激でうなり声をあげるが、発語はない。痛み刺激で両上下肢は刺激部位を払いのける動作を示す。身長150 cm、体重70 kg。体温36.4℃。心拍数120/分、整。血圧200/106 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂100%(リザーバー付マスク10 L/分酸素投与下)。瞳孔径は右5.0 mm、左5.0 mm。対光反射は両側緩慢である。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺や頸部リンパ節は触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

検査所見 : 簡易血糖測定器で血糖は128 mg/dLであった。

41 この患者の Glasgow Coma Scale(GCS)はどれか。

- a E4 V5 M5
- b E4 V4 M5
- c E3 V4 M4
- d E3 V2 M5
- e E3 V2 M4

42 まず行う検査はどれか。

- a 脳波検査
- b 頭部単純 CT
- c 脳脊髄液検査
- d 頭部単純 MRI
- e 脳シングルフォトンエミッション CT〈SPECT〉

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

23歳の女性。最近、普段と様子が違うことを心配した母親に伴われて精神科を受診した。

現病歴 : 6か月前から気分が沈み、自宅近くの内科診療所を受診し、抗うつ薬が処方された。1か月前から遅くまで働いた後に友人と外出し、帰宅後は明け方まで電話をするようになった。毎日出社していたが、取引先とトラブルを繰り返すようになった。抗うつ薬は処方されたとおりに服用していた。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 両親と3人暮らし。大学卒業後、会社に就職している。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。多弁で気分が高揚している。身長160 cm、体重53 kg。体温36.2℃。脈拍76/分、整。血圧114/66 mmHg。呼吸数15/分。SpO₂ 99% (room air)。神経診察で異常を認めない。

43 精神科受診時にこの患者にみられる症状はどれか。

- a 幻視
- b 離人症
- c 聴覚過敏
- d 抑うつ気分
- e 睡眠欲求の減少

- 44 この患者への説明で正しいのはどれか。
- a 「転職を考えてみましょう」
 - b 「薬を変える必要があると思います」
 - c 「精神疾患とは考えないでよいでしょう」
 - d 「このまましばらく様子を見てみましょう」
 - e 「元気なうちにやり残した仕事をしてしまいましょう」

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

68歳の男性。歩行困難を主訴に来院した。2年前から歩き方が酔っ払っているようだと言われ、家族に指摘されている。同時期から歩行時にふらついてしまうため、足を広げて歩くようになった。暗いところと明るいところで歩行のふらつきに違いはない。椅子からの起き上がりは可能だが、6か月前に起立時にふらついて転びそうになったことがある。階段を昇ることはできるが、階段を降りる際には手すりを使うようになった。書字動作がしにくくなり、線をまっすぐ引けなくなった。箸は握れて茶碗も持てるが、目的の場所に上手く箸を運べなくなった。徐々に話し方が酔っ払った様に不明瞭になった。歩行困難が進行し、2か月前に方向転換の際に転倒した。四肢のしびれ及び感覚の鈍さは自覚していない。徐々に症状が増悪するため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長168 cm、体重60 kg。体温36.1℃。脈拍64/分、整。血圧128/68 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液所見：赤血球510万、Hb14.2 g/dL、白血球8,300、血小板20万。血液生化学所見：総蛋白7.8 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST26 U/L、ALT20 U/L、LD180 U/L(基準124～222)、 γ -GT45 U/L(基準13～64)、CK70 U/L(基準59～248)、尿素窒素19 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖92 mg/dL、HbA1c5.0%(基準4.9～6.0)、総コレステロール152 mg/dL、トリグリセリド50 mg/dL、Na140 mEq/L、K4.0 mEq/L。心電図で異常を認めない。胸部、腹部および頸椎エックス線写真で異常を認めない。

- 45 この患者にみられるのはどれか。
- a 痙縮
 - b 失行
 - c 運動失調
 - d 運動麻痺
 - e 不随意運動
- 46 この患者の神経診察でみられるのはどれか。
- a Gowers 徴候陽性
 - b Romberg 徴候陽性
 - c Chaddock 反射陽性
 - d 鼻指鼻試験拙劣
 - e 固定姿勢保持困難〈asterixis〉

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

19歳の女性。呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前から上気道炎症状があった。3日前から喘鳴を伴う呼吸困難が出現したため救急外来を受診した。

既往歴 : 小児期に気管支喘息。

生活歴 : 喫煙歴はない。ペット飼育歴はない。常用薬はない。

家族歴 : 母親と弟は気管支喘息。

現症 : 意識は清明。身長162 cm、体重56 kg。体温36.2℃。脈拍92/分、整。血圧100/80 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂ 96%(room air)。頸静脈の怒張を認めない。心音に異常を認めない。呼吸音は両側全肺野で呼気時に wheezes を聴取する。下腿浮腫は認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球468万、Hb 13.9 g/dL、Ht 42%、白血球8,300(好中球55%、好酸球16%、単球6%、リンパ球23%)、血小板22万。血液生化学所見：総ビリルビン0.8 mg/dL、AST 20 U/L、ALT 16 U/L、LD 180 U/L(基準124~222)、尿素窒素14 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 98 mEq/L。胸部エックス線写真で異常を認めない。

47 この患者の呼吸困難で正しいのはどれか。

- a 座位で悪化する。
- b 食後に悪化する。
- c 夕方に悪化する。
- d 左側臥位で悪化する。
- e 夜中から明け方に悪化する。

48 救急外来で治療を行い、症状が安定したため帰宅となった。

翌日の外来受診時に処方すべき薬剤はどれか。

- a 利尿薬
- b 抗ヒスタミン薬
- c マクロライド系抗菌薬
- d 吸入長時間作用性抗コリン薬
- e 吸入副腎皮質ステロイド/長時間作用性 β_2 刺激薬配合剤

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

42歳の男性。右足関節痛を主訴に来院した。

現病歴 : 昨夕から右足関節の違和感を自覚し、深夜に同部の痛みと腫れが出現した。今朝から急激に悪化し歩行困難となったため救急外来を受診した。2年前から母趾の基部に疼痛を伴う腫脹が出現しては数日で寛解することを繰り返している。

既往歴 : 3年前から高血圧症と糖尿病で自宅近くの診療所へ通院している。

生活歴 : 喫煙は20歳から30歳まで20本/日。飲酒はビール500 mL/日。

家族歴 : 妹が関節リウマチ。

現症 : 身長160 cm、体重76 kg。体温37.2℃。脈拍92/分、整。血圧160/88 mmHg。呼吸数16/分。頭頸部に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮疹を認めない。右足関節は明らかに腫脹し、著明な圧痛と熱感を認め、痛みのため動かせない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖3＋、ケトン体1＋、潜血(－)。血液所見：赤血球472万、Hb 14.0 g/dL、Ht 43%、白血球12,300、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.9 g/dL、AST 48 U/L、ALT 62 U/L、LD 246 U/L(基準124～222)、 γ -GT 120 U/L(基準13～64)、尿素窒素12 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、尿酸7.9 mg/dL、血糖328 mg/dL、HbA1c 9.2%(基準4.9～6.0)。CRP 10 mg/dL。右足関節の関節穿刺を実施したところ、関節液の外観は黄色混濁を呈しGram染色では菌体を認めないが、白血球による針状結晶の貪食像を認める。

49 診断はどれか。

- a 痛風
- b 偽痛風
- c 脊椎関節炎
- d 関節リウマチ
- e 変形性関節症

- 50 まず投与すべきなのはどれか。
- a NSAID
 - b 麻薬性鎮痛薬
 - c 尿酸合成阻害薬
 - d グルココルチコイド
 - e 疾患修飾性抗リウマチ薬〈DMARD〉

